

令和6年度(令和5年度実施事業分) 主要事業評価各課総括表・2次評価表
2次評価者

企画部企画課 企画部長 山田 宰

整理No	主要事業名	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
		自己評価	評価内容	方向性	内容
3-1	広報推進事業	C	ホームページのアクセス数の減少は、アクセス数上位の新型コロナウィルス及びワクチンに関する情報への市民の関心度が年々低下し、関連するページへのアクセス数が減少したことが要因と考えられる。そのなか、3月下旬に行った市ホームページのリニューアルの際には、情報の精査や階層の整理を行い、さらに新たな機能を追加するなど、市民が必要な情報を探しやすいホームページの構築に努めた。 市報については、読者プレゼントや表紙の写真募集等の市民参加型の企画を盛り込んだほか、半田で活躍する「人」にスポットをあてた特集を掲載した結果、多くの読者アンケートの回答をいただくとともに、市報に対しても好意的な感想が多く、親しみのある市報作成への取組ができた。今後は、読者アンケートで得た意見を市報に反映することで更なる市報の満足度を向上を図る。	改善推進	ホームページについては、リニューアルに際して精査・整理した情報を定期的に見直し、情報の鮮度を保つことでアクセス数の増加に努める。 市報については、引き続き半田市が取り組んでいる事業やイベント情報等を市民に伝わるよう編集し、読者プレゼントや特集を掲載することで市民にとって親しみのある市報を目指す。
3-2	シティブロモーション推進事業	C	西三河地域を対象にした情報誌を活用した広報、若者世代（高校生・大学生）と連携した半田の魅力発信、地域資源をささえる「人」や「思い」を紹介する魅力発見ツアーを通して、市のPRと市民の愛着醸成に繋がる取組を実施した。また、0～3歳児を子育て中の親子向けに観光スポットや公園、子育て支援施設等を巡るツアーの開催により半田で子育てするイメージを具体的に持ってもらうことができた。 一方で、成果指標の割合として、「どちらでもない」の回答が増加傾向にあり、半田市への興味・関心が低下していることから、テレビやラジオなどマスメディアを通じたPR活動や情報発信を強化し、半田市の露出度を高め、認知度・イメージの向上を図る必要がある。	改善推進	半田市を知ってもらう・半田市に来てもらうなど半田市と関わりのある人（交流人口）を増加させるとともに、まちへの愛着や誇りを持ったファンを増やし、将来的な定住人口を獲得していく必要があるため、引き続き効果的な情報発信及び愛着醸成に繋がる取組を実施していく。 また、職員一人一人がシティブロモーションを意識し、積極的に行動していくことが重要であるため、広報事業と連携した取組や年間を通じた研修を実施し、市全体の広報・情報発信力の強化を図っていく。
3-3	ふるさと納税事務	C	国の制度改正により地場産品基準が厳格化されたことで、62品が出品停止となったことや、人気の返礼品が店舗移転等のため出品停止していることなどが目標値に届かなかった主な要因である。 寄附額は目標値には届かなかったものの、新規事業者開拓のための営業活動や、事業者説明会を実施したことで、事業者数は42者、返礼品数は73品増加し、返礼品の拡充につながった。 今後、事業者の思いや返礼品の魅力が伝わるような返礼品ページの作りこみを行うことや、シティブロモーション事業と連携して寄附額の増加を目指すとともに、ふるさと納税を通じた半田市の魅力発信を行っていくことが必要である。	改善推進	各サイトの返礼品ページを1商品ずつ見直し、事業者の思いや返礼品の魅力が伝わるような画像及び文章の編集を行っていくことで、寄附者が寄附したいと思えるようなページ作りに取り組んでいく。 また、シティブロモーション事業と連携して、イベントでの返礼品展示や、ふるさと納税サイトを通じた半田市の情報発信を行い、相互にPRしながら寄附額の増加と半田市のさらなる魅力発信を図っていく。
課等長	1次評価（令和5年度の総括評価） （広報関係事業）ホームページのリニューアルや市民参加型企画を取り入れた市報の改善策は評価できる。今後も適時適切な情報更新や市民意見の反映を継続し、伝わる広報を意識して改善を重ねていくとともに、全庁的な広報力向上のため、職員研修を進めていく必要がある。 （シティブロモーション推進事業）情報誌を活用した広報や各種イベントにより、本市のイメージアップや認知度の向上に取り組むことができた。特に子育て中の親子向けツアーは、市の子育て環境の魅力が具体的に伝わる手法であり評価できる。 今後は、デジタル技術を活用した取組の検証・分析を行いながら、「はたらく親を応援するまち」のブランディングにつながる効果的な取組を進めていく必要がある。 （ふるさと納税事務） 国による地場産品基準の厳格化や店舗移転による出品停止の影響も受けて寄附額が伸び悩むなか、新規事業者の開拓や返礼品の拡充を進めたことは評価できる。今後は、シティブロモーションも意識し、各課と連携したPRの仕組み構築や、SNSを活用したPRに取り組む必要がある。				
C					
部等長	2次評価（令和5年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項） 事業全体としては、改善を図りながら概ね事業推進ができておりと評価するが、各事業の効果を高めるため、共通して次の2点に注力すること。 ① 市の価値観や目標を市職員が共有することで、職員の意識や組織力を向上させ、事業効果を高めるために、研修を始めとするインナーブランディングに取り組むこと。 ② 事業の評価・分析の基礎となるデータの設定と収集に取り組むこと。				
C					

令和6年度(令和5年度実施事業分)主要事業評価シート						No.	3-1																																	
PDCA	主要事業名	広報事務	部課名	企画部企画課	担当 内線	山本 226																																		
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 5 - 1 - 1 単位施策： 情報共有 全体事業期間： 令和 5 年度 ～ 5 年度 全体事業費等： 19,477 千円 会計 一般会計 歳出科目： 02.01.02.0201																																							
	事業概要等	事業概要： 様々な広報媒体を通じて行政に関する必要な情報を提供し、その理解と協力を得る。また、新聞やインターネット等の各種媒体を活用し広報活動を実施する。																																						
		事業目的： 様々な広報媒体を通じて行政に関する必要な情報を提供し、その理解と協力を得る。																																						
		事業内容： 市報やホームページ・LINEなどの広報媒体を通じて、幅広い年齢層に市政情報を発信する。また、新聞やインターネット、テレビ等の各種媒体を活用し広報活動を実施する。令和5年度は、市内事業者と連携し、商品を読者プレゼントするコーナーの新設や市報の表紙写真を市民から募集するなど、市民の皆さんとともに作り上げる市報を目指す。																																						
		問題点： 提供する情報の内容により、適した広報媒体の選択が必要である。 課題等：																																						
	予算額	主要事業とする理由																																						
	19,477 千円	市政に関する情報を市民に発信し、市政に対する理解・協力を得ることが重要であるため。																																						
	財源内訳	得られる成果																																						
	市費 16,828 千円	必要な情報を提供することで、市民と市の情報が共有され、市民の市政に対する理解・協力が得られる。																																						
	国費 0 千円	目標値や目指すべき状態																																						
県費 0 千円	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ホームページのアクセス数（月間平均）</td> <td>153,879</td> <td>130,113</td> <td>—</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td></td> <td>100,000</td> <td>160,000</td> <td>160,000</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>はんだ市報の満足度（市民アンケートでの「非常に満足」または「おおむね満足」の割合）</td> <td>94</td> <td>94</td> <td>—</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>90</td> <td>90</td> <td>94</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2,649 千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位	ホームページのアクセス数（月間平均）	153,879	130,113	—	件		100,000	160,000	160,000	件	はんだ市報の満足度（市民アンケートでの「非常に満足」または「おおむね満足」の割合）	94	94	—	%		90	90	94	%	その他					2,649 千円				
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位																																				
ホームページのアクセス数（月間平均）	153,879	130,113	—	件																																				
	100,000	160,000	160,000	件																																				
はんだ市報の満足度（市民アンケートでの「非常に満足」または「おおむね満足」の割合）	94	94	—	%																																				
	90	90	94	%																																				
その他																																								
2,649 千円																																								
D 実績値	決算額	得られた成果																																						
	17,321 千円	市政等必要な情報を提供したことで市民と情報共有でき、市民の市政に対する理解・協力を得られた。																																						
		成果指標																																						
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和5年度</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ホームページのアクセス数（月間平均）</td> <td>120,301</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td></td> <td>160,000</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>はんだ市報の満足度（市民アンケートでの「非常に満足」または「おおむね満足」の割合）</td> <td>96</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>94</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table>					令和5年度	単位	ホームページのアクセス数（月間平均）	120,301	件		160,000	件	はんだ市報の満足度（市民アンケートでの「非常に満足」または「おおむね満足」の割合）	96	%		94	%																				
		令和5年度	単位																																					
	ホームページのアクセス数（月間平均）	120,301	件																																					
		160,000	件																																					
	はんだ市報の満足度（市民アンケートでの「非常に満足」または「おおむね満足」の割合）	96	%																																					
		94	%																																					
C 課題の整理	事業の評価・課題	C ホームページのアクセス数の減少は、アクセス数上位の新型コロナウイルス及びワクチンに関する情報への市民の関心度が年々低下し、関連するページへのアクセス数が減少したことが要因と考えられる。そのなか、3月下旬に行った市ホームページのリニューアルの際には、情報の精査や階層の整理を行い、さらに新たな機能を追加するなど、市民が必要な情報を探しやすいホームページの構築に努めた。市報については、読者プレゼントや表紙の写真募集等の市民参加型の企画を盛り込んだほか、半田で活躍する「人」にスポットをあてた特集を掲載した結果、多くの読者アンケートの回答をいただくとともに、市報に対しても好意的な感想が多く、親しみのある市報作成への取組ができた。今後は、読者アンケートで得た意見を市報に反映することで更なる市報の満足度向上を図る。																																						
A 課題の解決に向けた	今後の事業の方向性	改善推進 ホームページについては、リニューアルに際して精査・整理した情報を定期的に見直し、情報の鮮度を保つことでアクセス数の増加に努める。市報については、引き続き半田市が取り組んでいる事業やイベント情報等を市民に伝わるよう編集し、読者プレゼントや特集を掲載することで市民にとって親しみのある市報を目指す。																																						
	観点別評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>必要性</th> <th>有効性</th> <th>効率性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①市の関与の妥当性 妥当</td> <td>④上位施策への貢献 大きい</td> <td>⑦コスト削減 減余地 ある</td> </tr> <tr> <td>②市民ニーズ 高い</td> <td>⑤成果向上の余地 ある</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③休廃止の影響 大きい</td> <td>⑥類似事業の有無 ない</td> <td>⑧受益者負担適正化余地 —</td> </tr> </tbody> </table>					必要性	有効性	効率性	①市の関与の妥当性 妥当	④上位施策への貢献 大きい	⑦コスト削減 減余地 ある	②市民ニーズ 高い	⑤成果向上の余地 ある		③休廃止の影響 大きい	⑥類似事業の有無 ない	⑧受益者負担適正化余地 —																						
		必要性	有効性	効率性																																				
①市の関与の妥当性 妥当	④上位施策への貢献 大きい	⑦コスト削減 減余地 ある																																						
②市民ニーズ 高い	⑤成果向上の余地 ある																																							
③休廃止の影響 大きい	⑥類似事業の有無 ない	⑧受益者負担適正化余地 —																																						

目標項目（予算計上時に作成）

予算見積書で活用

評価項目（決算時に作成）

主要施策の成果報告書で活用

令和6年度(令和5年度実施事業分)主要事業評価シート						No.	3-2																																
PDCA	主要事業名	シティプロモーション推進事業	部課名	企画部企画課	担当	倉野																																	
					内線	226																																	
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 5 - 1 - 1 単位施策： 情報共有 全体事業期間： 令和 5 年度 ~ 5 年度 全体事業費等： 5,000 千円 会計 一般会計 歳出科目： 02.01.06.10.50																																						
	事業概要等	事業概要： 本市の都市イメージや認知度の向上を図るとともに、市民のまちへの愛着や誇りの醸成を図ることにより定住人口の獲得を目指す。																																					
		事業目的： 都市イメージの向上を図るため、半田市の魅力を発信するとともに、市民の愛着の醸成を図るための施策を展開し、定住人口の獲得を目指す。																																					
		事業内容： 情報発信事業（専用サイトの運用等）、まちへの愛着を醸成するための事業（まちの魅力発見ツアー等）、ふるさと新発見事業の実施。																																					
		問題点： すぐに効果が表れる取組ではないが、行政、市民・事業者が一体となって推課題等： 進できる体制を整備するとともに、長期的な視点で取組む必要がある。																																					
	予算額	主要事業とする理由																																					
	5,000 千円	市内外にまちの魅力を発信することで、市外から人を呼び込むとともに、市民に住み続けてもらうことが重要であるため。																																					
	財源内訳	得られる成果																																					
	市費 3,043 千円	市内外にまちの魅力を発信することで、市外から人を呼び込むとともに、市民のまちへの誇りや愛着を醸成し、半田市に住み続けてもらうことで定住人口の確保につながる。																																					
	国費 1,957 千円	<table border="1"> <thead> <tr> <th>目標値や目指すべき状態</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">これからも住み続けたいと答えた市民の割合（39歳以下）</td> <td>実績値 52.3</td> <td>43.2</td> <td>—</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>目標値 70.0</td> <td>70.0</td> <td>70.0</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2"></td> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">その他</td> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						目標値や目指すべき状態	令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位	これからも住み続けたいと答えた市民の割合（39歳以下）	実績値 52.3	43.2	—	%	目標値 70.0	70.0	70.0	%		実績値				目標値				その他	実績値				目標値			
	目標値や目指すべき状態	令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位																																		
	これからも住み続けたいと答えた市民の割合（39歳以下）	実績値 52.3	43.2	—	%																																		
		目標値 70.0	70.0	70.0	%																																		
		実績値																																					
		目標値																																					
その他	実績値																																						
	目標値																																						
0 千円																																							
0 千円																																							
D 実績 得られた成果と	決算額 4,758 千円	得られた成果																																					
	市内外にまちの魅力を発信することが、市民の自分の住むまちへの誇りや愛着の醸成につながるるとともに、今後の移住定住に向けて本市のイメージ向上の一助となった。																																						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>成果指標</th> <th>令和5年度</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">これからも住み続けたいと答えた市民の割合（39歳以下）</td> <td>実績値 34.5</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>目標値 70.0</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						成果指標	令和5年度	単位	これからも住み続けたいと答えた市民の割合（39歳以下）	実績値 34.5	%	目標値 70.0	%																									
	成果指標	令和5年度	単位																																				
	これからも住み続けたいと答えた市民の割合（39歳以下）	実績値 34.5	%																																				
		目標値 70.0	%																																				
	C 課題の整理	事業の評価・課題	C 西三河地域を対象にした情報誌を活用した広報、若者世代（高校生・大学生）と連携した半田の魅力発信、地域資源をささえる「人」や「思い」を紹介する魅力発見ツアーを通して、市のPRと市民の愛着醸成に繋がる取組を実施した。また、0～3歳児を子育て中の親子向けに観光スポットや公園、子育て支援施設等を巡るツアーの開催することで半田で子育てするイメージを具体的に持ってもらうことができた。一方で、成果指標の割合として、「どちらでもない」の回答が増加傾向にあり、半田市への興味・関心が低下していることから、シティプロモーションの原点に立ち返り、テレビやラジオなどマスメディアを通じたPR活動や情報発信を強化し、半田市の露出度を高め、認知度・イメージの向上を図る必要がある。																																				
		A 課題の解決方向性に向けた	今後の事業の方向性	改善推進 半田市を知ってもらう・半田市に来てもらうなど半田市と関わりのある人（交流人口）を増加させるとともに、まちへの愛着や誇りを持ったファン増やし、将来的な定住人口を獲得していく必要があるため、引き続き効果的な情報発信及び愛着醸成に繋がる取組を実施していく。 また、職員一人一人がシティプロモーションを意識し、積極的に行動していくことが重要であるため、広報事業と連携した取組や年間を通じた研修を実施し、市全体の広報・情報発信力の強化を図っていく。																																			
観点別評価			必要性		有効性		効率性																																
			①市の関与の妥当性 妥当	④上位施策への貢献 大きい	⑦コスト削減 減余地	ある	※対象・手段の変更																																
	②市民ニーズ 高い	⑤成果向上の余地 ある	⑧受益者負担適正化余地	—																																			
	③休廃止の影響 大きい	⑥類似事業の有無 ない																																					

目標項目（予算計上時に作成）
 予算見積書で活用
 評価項目（決算時に作成）
 主要施策の成果報告書で活用

令和6年度(令和5年度実施事業分)主要事業評価シート										No.	3-3	
PDCA	主要事業名		ふるさと納税事務		部課名		企画部企画課		担当 内線		祢宜田 226	
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 5 - 3 - 2 単位施策： 財政運営											
	全体事業期間： 令和 5 年度 ～ 5 年度 全体事業費等： 66,884 千円											
	会計 一般会計 歳出科目： 02.01.06.02.02											
	事業概要等		事業概要： 「生まれ育ったふるさと」や「ゆかりのあるまち」を応援したいという方が、都道府県や市町村に寄附した場合、寄附金額に応じて、一定額が個人住民税・所得税から控除される制度で、控除された部分は、寄附先の自治体への納税と同様の効果がある。また、寄附時に使い道を指定することが可能で、寄附者の意向をまちづくりに反映している。									
			事業目的： 自主財源を確保するとともに、地場産品である返礼品を贈呈することで、半田市をPRし、地域産業の振興を図る。									
			事業内容： 市ホームページ、チラシなどによりふるさと納税制度の周知を実施し、市外在住の寄附者には、金額に応じて返礼品を贈呈する。									
			問題点・課題等： ふるさと納税増加のため、魅力的な地場産品を掘り起こし、返礼品とする必要がある。主な対象者が市外在住者であるため、PRの工夫が必要。									
	予算額		主要事業とする理由									
	66,884 千円		市政に必要な自主財源を確保しながら、半田市や地場産品のPRや市内事業者の売上を増加させるため。									
	財源内訳		得られる成果									
	市費 0 千円		自主財源を確保するとともに、半田市及び地場産品を広くPRすることができる。									
	国費 0 千円		目標値や目指すべき状態		令和3年度		令和4年度		令和5年度		単位	
	県費 0 千円		ふるさと納税寄附額		実績値		49,689,710		84,949,690		-	
目標値					33,011,000		100,000,000		100,000,000		円	
			実績値									
			目標値									
その他 66,884 千円				実績値								
				目標値								
D 実績 得られた成果と	決算額		得られた成果									
	38,327 千円		寄附額は目標値には届かなかったものの、返礼品事業者及び返礼品数が増加したこと、より多くの地場産品をPRすることができた。									
			成果指標				令和5年度				単位	
			ふるさと納税寄附額		実績値		77,693,888				円	
					目標値		100,000,000				円	
C 課題の整理	事業の評価・課題		C 国の制度改正により地場産品基準が厳格化されたことで、62品が出品停止となったことや、人気の返礼品が店舗移転等のため出品停止していることなどが目標値に届かなかった主な要因である。 寄附額は目標値には届かなかったものの、新規事業者開拓のための営業活動や、事業者説明会を実施したことで、事業者数は42者、返礼品数は73品増加し、返礼品の拡充につながった。 今後、事業者の思いや返礼品の魅力が伝わるような返礼品ページの作りこみを行うことや、シティブロモーション事業と連携して寄附額の増加を目指すとともに、ふるさと納税を通した半田市の魅力発信を行っていくことが必要である。									
A 課題の解決に向けた	今後の事業の方向性		改善推進 各サイトの返礼品ページを1商品ずつ見直し、事業者の思いや返礼品の魅力が伝わるような画像及び文章の編集を行っていくことで、寄附者が寄附したいと思えるようなページ作りに取り組んでいく。また、シティブロモーション事業と連携して、イベントでの返礼品展示や、ふるさと納税サイトを通した半田市の情報発信を行い、相互にPRしながら寄附額の増加と半田市のさらなる魅力発信を図っていく。									
	観点別評価		必要性		有効性				効率性			
			①市の関与の妥当性 妥当		④上位施策への貢献 中程度		⑦コスト削減 減余地 ない					
			②市民ニーズ -		⑤成果向上の余地 ある		⑧受益者負担適正化余地 ない					
			③休廃止の影響 大きい		⑥類似事業の有無 ない							

目標項目（予算計上時に作成）
予算見積書で活用

評価項目（決算時に作成）
主要施策の成果報告書で活用